



先輩方からの 応援メッセージ

志賀小学校を卒業した先輩たちの、
当時の思い出やがんばった話、
壁にぶつかった時の超え方など
貴重な話がいっぱい！
ぜひ読んでみてね！



元柔道選手 **遠藤 宏美** さん（昭和17年度卒業）

世界ジュニア優勝 / アジア選手権優勝 / ワールドマスターズ優勝

志賀小学校での思い出

毎年、運動会は楽しみにしていました。特にクラス対抗の1年生から6年生までみんなが力を合わせる応援合戦にワクワクしていたことを覚えています。運動会前になると教えに来てくれた上級生がいつも以上にかっこよく見えました。また、友達とキックベースや心理テストを、少しの時間も惜しんで休み時間に集まり、よく楽しんでいました。

壁にぶつかった時の超えかた

常に最終目標は忘れないようにしていました。その目標のためには何をすべきか、一度立ち止まって今の状況を分析、把握することを心がけていました。また、壁にぶつかって心が折れそうになる時は、なぜ頑張りたいのかを思い出すように自分に問いかけていました。



思い出のある先生を教えてください

石田ゆりこ先生です。1年生の時の担任の先生でした。6歳なりに小学校生活を緊張していましたが、優しく厳しく指導してくださりました。大道芸が得意な先生で、休み時間や放課後にいつも教えてもらっていました。

いつごろ、自分の特技に気づいたか

負けず嫌いの性格で、幼い時から勝負事になると、小さなことでも負けたくないという気持ちは人一倍強かったです。良い面も悪い面もありますが、この性格が競技力向上につながっていたと思います。

志賀小学校の子どもたちに伝えたいこと

私は4歳から柔道を始め、現役選手として幸いにも28歳まで続けることができました。もし自分の好きなことや得意なことをやめたいと思った時は、もう1度だけ挑戦してみてください。1つのことを長く続けることで知らない世界が見え、価値観が広がり、これからの選択肢が増えることを知ってほしいです。

自由記述

この度は小学校の思い出を振り返る機会をいただきありがとうございます。懐かしく温かい気持ちになることができました。小学校で過ごす六年間は心身共に一番成長する時期だと思います。友達と遊んだり、苦手な教科を勉強したりすることも自分の糧になります。どうぞ自分を信じてたくさんの経験や挑戦をしてほしいです。その過程がきっと未来の自分を支えてくれます。

高等学校教諭 **近藤 高代** さん（昭和61年度卒業）

2004年アテネオリンピック日本代表（陸上競技 棒高跳）
2004年 当時の日本記録を樹立

志賀小学校での思い出

小学校の思い出、それは、毎日の普通の生活全てが思い出です。もちろん、修学旅行で地引網漁をしたことや、フローティングスクールで「うみのこ」に乗ったことなど行事もたくさん思い出はありますが、毎日、友達と大笑いし、一生懸命に遊び、時々、先生に怒られたりしていた何気ない毎日がとても楽しく、充実していました。

壁にぶつかった時の超えかた

壁にぶつかった時ほど自分を試すチャンスだと思います。どんな方法で突破しようか、どんな思考で抜け出そうか、考えて試している時がとても面白いです。その壁を超えた時の嬉しさを想像しながらチャレンジします。

思い出のある先生を教えてください

1,2年の担任の関口先生、3,4年生は山中先生・八軒先生、5年生は高橋先生、たくさんの先生方にお世話になりました。多くの素晴らしい先生方のお陰で教師になり、楽しい毎日をごせています。



いつごろ、自分の特技に気づいたか

棒高跳を始めたのは大学生になってからですが、この好奇心旺盛な性格が棒高跳を始めたきっかけとするのであれば、小学生の時から好奇心旺盛だったので、その要素は小学生から持っていたのかもしれませんが。

志賀小学校の子どもたちに伝えたいこと

卒業式で証書を授与される際、将来の夢をOHP(現:プロジェクター)で映し出されました。その夢は「陸上選手になること」。まさか本当に実現できるとは思いもしませんでした。『夢は実現するもの!』皆さんも夢や目標をしっかりと持って、チャレンジすることを恐れずに学校生活を過ごして下さい!

自由記述

志賀小学校創立150周年おめでとうございます。実家に帰り校舎を目にすると、変わらずあの場所にあることに嬉しく思います。SNSが普及したお陰で小学校の同級生と連絡を取ることができ、数年に一度ですが集まります。卒業してから数十年と経ちますが、あの頃のままで会話をすることができ、楽しい時間を過ごせます。楽しく過ごせるのも、小学生の時にとても楽しく過ごせたからで、そんな素晴らしい時間を過ごさせてくださった先生方には感謝しかありません。これからもたくさんの思い出が溢れる志賀小学校であることを願います。

志賀小学校での思い出

実はあまり人間関係が上手にできず、人との思い出よりも校舎に思い出が多いです。雰囲気のある校舎や遊びの幅も多く、同級生はそれぞれ自主的に遊びを作り出して楽しんでいた印象です。一緒に遊ぶことで社会の勉強になりました。

壁にぶつかった時の超えかた

自分の場合は人に話を聞いてもらう。人に会えることで気分転換にもなるし、話すことで自分も悩みを整理できるからです。それぞれのやり方を見つけてみてください！

思い出のある先生を教えてください

先生も人間なので、相性があると思います。自分の何倍も人生経験をしてる大人から悩みや相談にアドバイスをもらうことはいいと思います。好きな先生を見つけてみてください。

いつごろ、自分の特技に気づいたか

幼稚園時代、足の指を骨折して休んでいた時に母が絵を教えてくれました。以降ずっと絵を描き続けています。あとは大人になった今でも僕は人懐っこく、コミュニケーションをとるのが好きです。小学校当時からいつも友達といました。大勢の同級生と接する機会があったからかもしれません。

志賀小学校の子どもたちに伝えたいこと

“好きなもの”を伸ばせば将来必ず役に立ちます。好きなものを見つけて、それを続けること。勉強でもそれ以外でも可能性を広げつつ自分が興味を持てることをたくさん見つけてください。

自由記述

楽しい時間や逆に辛い時間が学校生活にはあると思います。それは良くも悪くも長くは続きません、楽しくするのも自分自身だし、たくさん経験して、挑戦して、ぶつかって学んでいくのが学校だと思っています。その時間を楽しめたら人生はいいものになります！



志賀小学校での思い出

母が元気な頃に一緒に行った、小学校1年生入学式の時、校門に咲いていた桜がそれはそれは美しかった光景を今も覚えています。2年生で父兄参観日、ふと後ろを見ると、中学の制服を着た兄が来てくれた。その日は両親が仕事で忙しく来なかった。どうしてお兄さんが来てたん？という私の質問に、母は面白い事を言った『ひろちゃん、父兄参観の父兄という字は父兄（ちちあに）て書くんやで』て（笑）。

壁にぶつかった時の超えかた

スレート屋根の、スキスキのあの寒い部屋にストーブを置いて、冷えた手を温めて練習し、また冷えたら温めて、の繰り返しの中での練習の毎日でした。顔は大きいのに（笑）、この小さな手。ピアノは中学からなので絶対音感もない、という私でしたが、音大が楽しく、また次々に課題が来て、考える間もなく、続けることで乗り越えてきた。そう、これしか無い、と決めてやり続けることで乗り越えてきたと思います。

思い出のある先生を教えてください

なんと言っても稲岡昌瑞（漢字合っているかどうか心配）先生。規律正しく、いじめっ子に厳しく、授業は厳格に、音楽、そろばん、野球、と楽しいことにも我々と一緒に楽しんでいただいた。

いつごろ、自分の特技に気づいたか

小学校5・6年生の頃、鼓笛隊でリコーダーを担当し「ガボット」の美しいメロディーを奏でるのが楽しかったのを覚えています。中学2年ではプラスバンドでユーフォニウムを吹き、音楽の授業で辻村先生の出題される聴音や高度な理論問題も自然と覚えられました。そんなある日、親が学校に呼び出され、「音楽が好きならピアノをやらせてはどうか」と言われたそうです。母に「ほんまにやる気あるか？」と聞かれ、「うん」と即答。家計が厳しい中でピアノを買ってくれました。自宅の2階にある部屋にピアノが届き、私は夢中で練習し、数ヶ月でバイエルを終えました。そして、ユーフォニウムで大阪音楽大学附属音楽高等学校に合格することができました。

志賀小学校の子どもたちに伝えたいこと

小学校卒業の時、担任の先生から全員に、一寸光陰不可軽（一寸の光陰軽んずべからず）と書かれた色紙をいただきました。今も、先生がこれを説明されている光景をはっきりと覚えています。やらなければならない、と言う考え方よりも、やる事はやるんだ、と言う考え方で早く行動に移すこと。あつという間に古希1年生になりましたよ〜。（笑）

自由記述

どうしてピアニストをしているのか、人生に二つの不思議があります。一つは中学2年のとき、母にピアノを買ってもらったこと。もう一つは、大阪音楽大学附属高校に入学後、ユーフォニウムからトロンボーン科に変わったことです。5年間続けたトロンボーンは上達せず悩んでいた頃、ジャズ喫茶でカウント・ベイシー楽団の音楽に出会いました。心地よいリズムに魅了され、ジャズ音楽に没頭する毎日になりました。特にウィントン・ケリーの鼻歌のようなピアノに惹かれ、耳コピで楽譜を起こす日々が始まります。ある日、レッスン前にピアノを弾いていた私に、トロンボーンの先生が「その道に行きたいのか？ 応援するよ」と言ってくださいました。中学時代の辻村先生、大学時代の土橋先生のおかげで、今ピアノで生きているのが本当に不思議で、また感謝しかありません。



志賀小学校での思い出

びわこ池の周りや、運動場の跳びタイヤでたくさん遊んだことをよく覚えています。今思うと少しおてんば娘だったのかもしれませんが。入学してすぐの頃は、二宮金次郎像が少し怖かったのもいい思い出です。



壁にぶつかった時の超えかた

うまくいかない時や、頑張れない時には、周りにいる人と切磋琢磨すること大事だと思います。ひとりで頑張れる人はすごいですが、私はそうではなかったので、友達と一緒に頑張っていました。友達が活躍している姿を見たら、「自分もやらないと！負けてられない！」という気持ちになって、落ち込んでいた時も頑張れました。

思い出のある先生を教えてください

3年生のときに担任をしてもらった、当時新任の田坂葵先生をととてもよく覚えています。お綺麗な見た目にもかかわらず、とても面白くて熱心だったので、そのクラスはみんなが明るく楽しく過ごすことができました。当時の田坂先生と今の私の年齢が近いので、改めてすごいと思います。

izzごろ、自分の特技に気づいたか

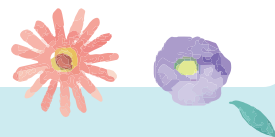
幼い頃から音楽が好きで、5歳からピアノを習っていました。小学2年生のときに軽い気持ちでコンクールを受けてみたら、年上の方もいる中で銀賞をいただけて、頑張ればもっと上手になれるかもしれないと思いました。それをきっかけに、3年生からはピアノに真剣に向き合うようになりました。

志賀小学校の子どもたちに伝えたいこと

みなさん、たくさん遊んでください！志賀小学校のお友達と仲良く過ごせるのは、とても素敵で素晴らしいことです。その楽しかった思い出が、大人になってからもいろんなことにつながります。勉強は授業中の先生のお話をしっかり聞いて、宿題もちゃんとやっていけば大丈夫！勉強も遊びも一生懸命やってほしいと思います。

自由記述

楽しいなと思えることをたくさんやってください。得意なことを探すのは難しいけれど、楽しいことや好きなことは何個か思いつくんじゃないでしょうか。勉強やスポーツ、芸術やお笑い、なんだっていいです！「好き」と「楽しい」をたくさん見つけて、家族の人にそれを伝えてあげてください。皆さんの健やかな成長を願っております。



志賀小学校での思い出

運動会での出来事です。出場したリレーで転んでしまい、靴が脱げてしまったことがあります。その時なぜか、靴を綺麗にそろえ、グラウンドに置いたまま走り出してしまいました。友人から揃えた理由を聞かれて困ったことを覚えています。それ以来、走る前には靴紐を強く結ぶようになりました。今となってはよい思い出です。

壁にぶつかった時の超えかた

「壁」の存在を自覚することが大切と考えています。そのうえで、なぜ、超えなければならないのか、何のために超えるのか。自問自答を繰り返し、超えようと決意したならば、覚悟を決めて「壁」の向こう側を目指すようにしています。



思い出のある先生を教えてください

5年・6年で担任をくださった熊尾マサ子先生です。日本の歴史を時代区分ごとにまとめる新聞づくりをほめていただき、毎号、楽しく取り組むことができました。このことがきっかけとなって、世界や日本の歴史に強く関心を持つようになりました。今も歴史から多くのことを学んでいます。

izzごろ、自分の特技に気づいたか

特技は靴磨きです。革靴を履き始めた頃から道具をそろえ、気分転換をかねて磨いています。

志賀小学校の子どもたちに伝えたいこと

「好きこそものの上手なれ」好きなことに取り組んでいるとき、人は生き生きと輝くことができます。情熱をもって取り組める、夢中になれることをみつけてください。



自由記述

創立150周年おめでとうございます。卒業して40年近くが経過しましたが、今も校歌を斉唱すると清々しい気持ちになります。在校生の皆さんには、校歌で歌われているように、「元気に楽しく」学んでいただきたいと思います。

志賀小学校での思い出

グラウンドに鹿が迷い込んできて、走り回っていました。全校生徒が窓に釘付けになっているなか先生数人が網みたいなものを持って鹿を捕まえようとしていました。警察呼ばんのかい！って幼いながら思ってた記憶があります。

壁にぶつかった時の超えかた

私も過去に何度も壁にぶつかりましたが、その度に自分の弱点と向き合い、克服することで成長できました。壁は、自分を成長させてくれるチャンスだと捉えています。

思い出のある先生を教えてください

小1・3年の担任、いとうくによ先生は、郷ひろみファンでした。先生の前で友達とモノマネを披露して、大爆笑したのが忘れられない思い出です。小6の担任、臼井先生は、私たちの自立心を大切にしてくれました。今思えば、子供たちの自主性を尊重し、あえて口出しをしない独特な指導方針。あの時育まれた『自分で考え、行動する』という姿勢は、今の私の根幹を形作っています。



いつごろ、自分の特技に気づいたか

格闘技に関しては、まだまだ成長過程だと感じています。常に上を目指しているので、自分の限界が分からないのかもしれませんが、どんな状況でも諦めずに努力を続けられるのは、私の強みだと思っています。



志賀小学校の子どもたちに伝えたいこと

何か迷ったら、たくさんの大人に相談しよう。色々な意見を聞けば、きっと自分だけの答えが見つかる。そして、見つけた答えをまた色々な大人に伝えてみよう。そうすることで、君の考えはもっと磨かれていく！

自由記述

僕は小中高と野球に打ち込み、高校の夏に引退後、格闘技の世界に飛び込みました。将来をすぐに決める必要はありません。今しかできないことを全力で楽しんでください。学生時代の経験は、きっと未来の君を強くしてくれるはずです。

志賀小学校での思い出

小学校時代で最も印象深かった出来事は、校外学習で宇佐山古墳の発掘現場を見学したことです。発掘調査中の石棺を目にし、初めて「過去」という時間の存在を実感し、大きな衝撃を受けました。この経験をきっかけに、学内で展示されている瓦にも関心を持ち、小学校が歴史ある土地に建てられていることを改めて認識しました。私の歴史への興味を掻き立てたのは、間違いなく小学生時代のこの体験です。

壁にぶつかった時の超えかた

「絶対に悪い方向には進まない」と確信し、どんな状況にも真っ直ぐ向き合うことを意識しています。忍耐を求められる場面でも、私に起きる出来事で悪い方向に進むものはないと確信し、壁にぶつかったときに逃げないことを心がけています。心が乱れることもありますが、そういう時は誠実に生きる姿勢を改めて意識すれば、いつの間にか状況が好転していると感じます。

思い出のある先生を教えてください

小学六年生の時の担任、西法子先生です。当時生意気盛りの小学生だった私を、子供扱いせず向き合ってくださいました。三年半の志賀小での生活で、印象的な出来事が多かった六年生。西先生なくてはあの活気はなかったと思います。

いつごろ、自分の特技に気づいたか

高校時代、放送班の活動を通じて、自分の言葉で物事を伝えることに自信を持てるようになりました。高校二年生のとき、大会に向けて逢坂山にある関蟬丸神社の芸能祭について取材を行いました。神社再興への想いに感銘を受け、その熱意を伝えるために入念に原稿を準備をしました。大会で「想いがよく伝わった」と評価され、自分の言葉で伝えることに自信ができました。

志賀小学校の子どもたちに伝えたいこと

志賀小学生の子どもたちには、目の前にあるワクワクすることにとことん挑戦してほしいです。勉強、スポーツ、遊び、食事、種類は問いません。面白い、もっと知りたい、やってみたい！とワクワクする気持ちに素直になって、満足するまで取り組んでみるのが「素敵なひと」になるカギだと思います。

